

川口市立医療センター広報紙

花 水 木

Hanamizuki

特集

DMAT 活動を通し能登半島復興を願う



川口市立医療センター
イメージキャラクター「みみたず」
“よく聴き・よく診て・よく説明する”

2024
初夏号
Vol.65

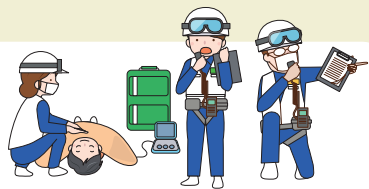
基 本 理 念

市民に信頼され、安全で質の
高い医療を提供します

DMAT活動を通し能登半島 復興を願う

平成6年5月に地域の医療機関病院として、川口市立医療センターは開院しました。周囲を多数の樹木に囲まれ、春には桜が開花するなど春夏秋冬を感じられる病院です。当院は、平成10年に埼玉県から埼玉県基幹災害拠点病院に指定されました。基幹災害拠点病院とは、県内や近県での大規模災害(地震、噴火、水害等で多数の傷病者が発生した時)の発災初期より、傷病者の受け入れや災害派遣チーム(以下DMAT)の派遣などを行う病院のことをいいます。DMATは厚生労働省指定の研修を受講し試験に合格した医療従事者で、医師、看護師、業務調整員で構成され、被災地域の病院支援、傷病者の治療支援や搬送(救急車、ドクターヘリ、自衛隊輸送機)を行います。

当院には令和6年3月31日時点で



医師4名、看護師11名、業務調整員4名のDMAT隊員がおり、これまでも被災地域へ派遣を行っています。

新年を迎えた令和6年1月1日に、石川県能登地方を中心に震度7を観測した地震が発生し、2日に石川県からDMAT派遣要請が出されました。当院は1月10日に埼玉県から派遣要請を受け、1月11日から29日までに計3回(派遣合計人数:医師3名、看護師6名、業務調整員4名)被災地での医療活動を行いました。医療活動を行うに



災害派遣チーム(DMAT)第1次隊



災害派遣チーム(DMAT)第2次隊



災害派遣チーム(DMAT)第3次隊

あたり、医療資機材、通信機器、個人防護服、非常食3日分、水約20ℓ、寝袋等を持参し、一般車両と救急車で移動しました。

活動地域は珠洲市と七尾市となり、当時の被災地域の天候は雪、気温は低く積雪していました。道路は陥没し段差が多いため、慎重な移動となりました。被災地域の生活は、ガソリンスタンドが一定時間のみ営業、飲食店も再開に向けて準備を進めている状態でした。一部倒壊の住宅は、地域の住民が集まり補修工事を行っていました。

当時の珠洲市は、上下水道、ガスが使用困難、倒壊住宅が散在しており、病院や施設、避難所のスタッフは、不眠不休で勤務し疲労が溜まっている様子でした。自宅が倒壊したスタッフは、帰宅が困難なため職場に寝泊まりし、連続勤務されていました。私たちは、主に市内の入居施設(高齢者・障害者)やクリニック等の被災状況調査を

行い、施設に入居している方の金沢市への避難の必要性を、検討・調整しました。避難の際には、一緒に活動した他のDMATや石川県庁、消防、自衛隊などの方々と連絡を取り合いました。七尾市では、被災病院や避難所にて被災者や現地のスタッフへ必要な医療資機材の聞き取り調査を行うなど、少しでも被災地の方々の力になれるように活動をしてまいりました。

活動中のエピソードがあります。ガソリンスタンドで給油をお願いすると「どちらから来たの? 埼玉から来てくれたんだ。遠くから来てくれてありがとう。」と声をかけていただきました。医療従事者としてでなく、一人の人間としてうれしく感じ、心が温まるのを覚えています。また、珠洲市から望む立山連峰の息をのむ美しさに心をうたれ、いつか観光や旅行など今回と違う形で復興に関われたらと思います。一日でも早い能登半島の復興と、住民の方々の笑顔が戻ることを願っております。



避難施設の様子

専門・認定看護師による 出張勉強会始めました!



当院には、特定の分野において十分な経験を積み専門的な教育を受けた専門・認定看護師が活動しています。この度、地域のつながりを大切にするとともに専門・認定看護師が川口市内の訪問看護ステーション・介護施設を訪問し、「勉強会」を開催することになりました。

第1回目は、「創傷ケア勉強会」

皮膚・排泄ケア特定認定看護師が施設に行ってきました。



内 容

- ・皮膚の構造・役割
- ・高齢者の皮膚について
- ・スキンケア(特に保湿ケア)
- ・褥瘡の発赤要因・予防
- ・車いす乗車時の褥瘡予防
- ・体位変換の方法
(拘縮のある方のポジショニング)
- ・褥瘡に用いる軟膏の種類・使用方法

勉強会終えての感想

施設スタッフ

- ・現状を改善できるケアについて学ぶ事ができました。
- ・褥瘡の方には栄養が重要と考えていましたが、蛋白質の過多は体に負担がかかる事に気づけました。
- ・事例を踏まえた介助・処置方法が理解できました。今後のケアに活かしていきたいと思います。

特定認定看護師

- ・日頃行っているポジショニングに対する疑問や、スキンケアについて一緒に考える事ができました。
- ・病院とは異なり生活の場として過ごされている施設での褥瘡予防について学ぶ良い機会になりました。
- ・今後も地域の施設の方々と勉強会を通じて、看護の連携ができると良いと思いました。

今後開催予定の出張勉強会

- ・高齢者看護(認知症・せん妄)
- ・緩和ケア(終末期看護・家族ケア)
- ・新生児(小児)集中ケアなど



救急 ワークステーション 事業について



川口市では、2022年7月より救急ワークステーション事業を開始しました。この事業は、重症外傷・心肺停止など、命に関わる患者さんの早期治療を現場で行い救命率を向上させることを目的としています。

出動時間は平日9時から17時まで、出動範囲は川口市全域です。119番通報の内容から指令センターの判断により出動要請が出されます。出動は消防局指令課の判断になるため、患者さん本人やご家族の希望による出動要請はできません。出動要請が入ると、救急隊員とともに医師・看護師が専用機材を携行し、病院に待機している救急車で出動します。要請から出動までの平均時間は約3.5分です。救急現場に到着後、医師・看護師・救急隊員が連携し、その場で診察と高度な初期治療を開始します。携行する医療機材は心肺停止

時に使用する機器・薬剤、重症外傷に対応できる手術・処置機材、小児に対応できる機材で、年齢・性別問わず全ての方に早期に治療を提供しています。

令和元年度の埼玉県資料によると、救急車が到着するまでの時間は約8.5分、救急車を要請してから病院で治療を受けるまでの所要平均時間は43.2分でした。令和5年4月時点の当院の救急ワークステーションでは、現場到着時間は平均12.3分でした。

これは一刻を争う救急現場において、通常搬送と比較すると、30分以上も早く高度な初期治療を受けられるということを意味しています。

これからも市民の皆様の命を救うため、各機関と連携し、より良い救急活動を行なって参ります。救急車の適正利用と併せまして、ご協力の程よろしくお願いいたします。

「メッセージボックス」～みなさまからのご意見箱～

お寄せいただいた感謝の声、ご意見等を抜粋して掲載いたします。



患者さんからの感謝の声

大変大変ありがとうございます。全体的に素晴らしい病院でした。どの分野のスタッフの方々も対応ぶりが優しくて、心のこもった接し方や挨拶は、本当に素晴らしいものでした。やさしい接し方だけでも病が治る気がいたしました。素晴らしいかったです。世の中、皆このようであれば良いと思うほどでした。お若くておきれいで素敵な先生はじめ手術室の皆様方、本当にありがとうございました。特にびっくりだったのが昔のお知り合いの方にお世話になることは、術前後のやさしい対応に泣けてしまいました。本当に皆様ありがとうございます。

(病院からの回答)

メッセージカードへご投函いただきありがとうございます。また多職種への感謝のお言葉をいただき、チーム医療の団結力をさらに高めていく事への励みとなり、感謝申し上げます。より一層の充実したチーム医療の提供に努めてまいります。

患者さんからのご要望

眼科外来の椅子が長時間の待機は不向きです。どうか座りやすいものをお願い致します。

(病院からの回答)

ご意見いただきありがとうございます。また長時間お待たせしてまい申し訳ございません。

青木信用金庫様から椅子を寄贈していただき、眼科外来については2月13日に新しい椅子に変更いたしました。外来の待ち時間の長さについても喫緊の課題であり、待ち時間の短縮を含めた病院環境の改善に努めてまいります。

患者さんからのご意見

糖尿病のクリニックで紹介状を持って仕事を休んで受診するように言われたので、仕事を休んで行ったが、当日は予約をとただけで診てもらえず、診察は後日となった。ホームページを見ても受診方法がのっていないので予約が必要なのかわからなかった。受診方法をホームページに載せてください。

(病院からの回答)

ご不便をおかけいたしまして申し訳ございませんでした。受診方法について、ホームページでは「受診案内」として、初診の方と再診の方の受診の流れを掲載しております。しかし、わかりにくい場所に掲載されておりますので、わかりやすいようにレイアウトを変更いたしました。

今後も、患者様がより快適に受診していただけるよう、環境改善に努めてまいります。



専門的な治療や
特殊な検査



紹介

日常的な診療



お近くの診療所など
(かかりつけ医)

地域医療の仕組み

治療後

紹介

重症



■ バス案内 (国際興業バス)

川口駅東口(8番)発
川口市立医療センター経由 新井宿駅行
西川口駅東口(1番)発
川口市立医療センター経由 新井宿駅行

蕨駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

赤羽駅東口(6番)発

新井宿駅経由 川口市立医療センター行

■ 循環バス (川口市コミュニティバス)

みんななかまバス

■ 埼玉高速鉄道をご利用の方は

埼玉高速鉄道 新井宿駅から徒歩10分

■ 駐車場のご案内

駐車料金 4時間まで200円(その後1時間ごとに100円)
総合受付の「5」会計受付にてパーキングカードを販売しております。
(1,000円券・3,000円券)
駐車台数 約600台収容

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦

編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180 TEL 048-287-2525 (代表)



ホームページ